

魚津三太郎塾 ポスター集

第1期

(平成23年10月～24年3月)

平成24年3月28日(水)作成

企 業 名

提案者(塾生)

魚津印刷(株)

森内 将史

魚津水族館

伊串 祐紀

(株)魚津清掃公社

蔦 浩一

オーアイ工業(株)

有賀 淳一

海風亭

美浪 呂哉

(株)関口組

関口 雄介

にいかわ信用金庫

島津 敬治

新川森林組合

佐竹 謙二

(株)ハマオカ海の幸

朝野 愛子

本田会計事務所

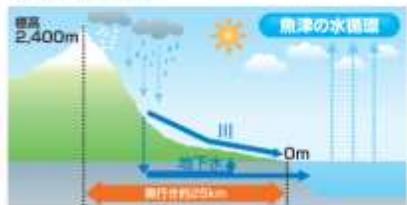
荒地 浩志

紙の地産地消

“切っても切れない”紙と、魚津の水循環の“関係”

魚津市は、海岸から標高2,400m以上の山岳地帯に至るまでの直線距離がわずか25kmしかない急峻な地形から成り立っており、毛勝三山などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、地下水や川となって富山河に注いでいます。この水循環によって生まれる水は、飲用や産業用にも利用され、魚津市の水道水は100%地下水でまかなうことができます。

この貴重な水循環を残していくためには、海の水環境保全是もちろんのこと、山の保全も重要とされます。しかし、この水循環がとても大切であることに市民の関心は低く、まずはこの水循環への意識を高めていくことが必要ではないかと思われまます。



1 当社が魚津の水循環にどのように関わることができるのか？

当社は、印刷業として魚津市で50年の実績があり、市の広報紙をはじめ、パンフレットやチラシ、商業印刷物(伝票類)など、印刷物全般を取り扱っております。今回、三太郎塾に参加させていただくことによって、印刷業として何らかの形で環境保全に貢献できるのではないかと社内で話し合い、社員が業務の枠を超え、環境に対する意識改革へと繋がりました。その中で、よく使われる再生紙について調べてみましたが、再生紙を選択することが本当に環境保全につながるのか疑問がもたれました。

古紙配合によるCO2排出への影響



2 再生紙以外の選択肢はないのか？

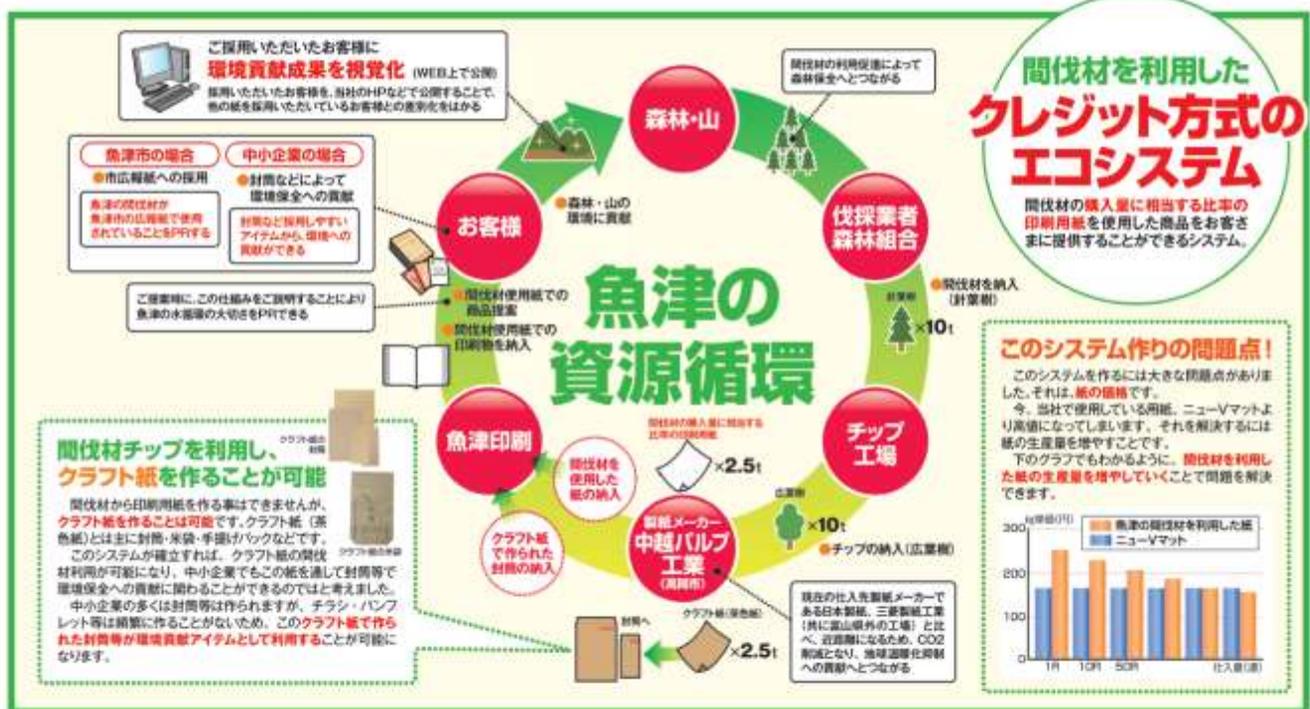
間伐材を利用して紙を作ることができないかと考えました。さらに、魚津の間伐材を利用して紙を作ってくれる製紙メーカーを探すとともに、利用にあたって、魚津市になるべく近い製紙メーカー(輸送コストなどを考慮して)である、中越パルプ様(工場:高岡市)に直接相談してみました。

3 間伐材を利用して紙を作る事が可能か？

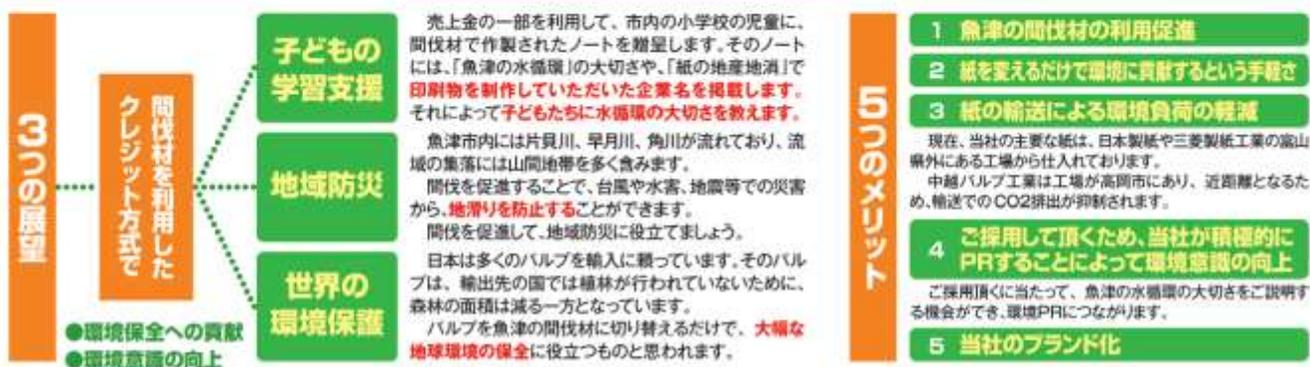
中越パルプ様から間伐材を印刷用紙に使うことは、今の技術ではできない事を聞かれました。その理由は、間伐材のほとんどは杉であり、杉の繊維は伸縮することから印刷紙としては利用できないことを聞かされました。

4 間伐材を利用したエコシステム作りは可能！

間伐材の紙を作ることができないのであれば、システム作りをしてはどうかと考えました。そのシステムの流れは下の図のようにクレジット方式にすることで。間伐材からできる紙量は、計算することが可能で、間伐材の約1/4が紙にのみと考えられます。そこで間伐材の購入量から実際の用紙にクレジット換算することが可能になるといふことです。



「紙の地産地消」によって生まれる「3つの展望」と「5つのメリット」



魚津の水

魚津市は、水の源である毛勝山から海までの距離が25kmと極めて短く、清涼な水が河川水や地下水となって富山湾へと注ぎ込んでいます。この水は市民にとってまさに「命の源」です。この水について、今考えるときです。



旅人から見た魚津の印象

一言で言えば「自然豊か」。生き物が多く、水はキレイ。夜になればホタルが舞い、カエルが鳴く。これって、とても素晴らしいことだと思います。

でも、自然とふれあう子供が少ない！！

↓
自然が当たり前すぎる？
危ないから？
ふれあい方が分からない？

愛知からの旅人が見た
魚津にいる珍しい生き物



魚津の自然を利用して、子供たちと何か一緒にしたい！！

子供たちへの思い

- ・もっと魚津の自然に親しもう
- ・生きものたちとふれあおう
- ・魚津の自然が育んだ安心安全な地産品を食べて笑顔になろう

目指す姿はコレ



学芸員の僕ができることは

**野外で楽しむ
「しくみ作り」**

魚捕り、虫捕り、観察、魚釣り
田んぼ体験（田植え、草取り、稲刈り）
野草茶作り、自然探検、自然を食べる
写真、絵、俳句、詩
etc・・・

安全でうまい魚津のおにぎり
(愛情たっぷり 🍱)

片貝川沿い「山女地区」で田んぼプロジェクト開始！

協力：MK農産

	1年目	2年目	3年目以降
田んぼ作り	減農薬、減化学肥料を目指す！中干時期についても検討。イベントの計画。		
生き物調査	いつ、どんな生き物が田んぼを利用しているのか調査		
イベント	おにぎり、干物、漬物、ガンコ汁 etc		
魚津おにぎり定食	田植え体験 生き物観察会 etc	間伐材を使って 炊飯に挑戦	魚津の魅力の ひとつに

田んぼプロジェクトによって生まれる展望

<p>にぎやか田んぼ完成 生きものがたくさんいるにぎやかな田んぼ！お米はもちろん安心安全です！</p> <p>↓</p> <p>環境の保全 安全な米</p>	<p>ふれあいの場 野外型イベントに参加して「自然とのふれあい方」を学習します。</p> <p>↓</p> <p>自然への関心 自然体験</p>	<p>体験観光 キャンプ場が近いので「魚津の自然体験ツアー」も実施できます。</p> <p>↓</p> <p>地域の活性化 自然への関心</p>	<p>魚津おにぎり定食 安心安全な米で作ったおにぎり、富山湾の魚で作った汁や干物など魚津を丸ごと食べられる定食です！</p> <p>↓</p> <p>環境保全を 味わう</p>	<p>水族館を使おう 自然への入口、出口である水族館で理解を深めよう！</p> <p>↓</p> <p>魚津の自然を見る 学習</p>
---	---	---	---	--

魚津で遊び、世界の自然を守る！！

水・食・環境「エコふぁーむ魚津」

ここは必ず誰かに会える場所、四季を感じる環境のテーマパーク

魚津の水循環について

たった奥行25kmの距離、2415mもの高度差の中で海→山→川→里→海とめぐる循環が完結。
海の水は蒸発して雲となり、雨や雪となって大地へ降り注ぐ。その水は山や川に生きる多様な生物をはぐくみ、また海へと帰っていきます。魚津の海と大地の循環の中で作り出される水は、飲用にも産業用にも適した優れた水質を保っています。

魚津清掃公社の取組

魚津清掃公社は昭和44年より魚津市内において浄化槽維持管理、下水道処理施設維持管理など生活排水を河川レベルにもどすことを業として行ってきました。廃棄物処理、リサイクルなど生活に密着した仕事をしている我々ができることはこの恵まれた環境を未来の子供たちに残すためにできることから始めます。

コンセプト

水・食・環境「エコふぁーむ」は事業所や家庭から出るリサイクルごみを常時受け入れたり、家庭の不用品を販売するリユースショップの開設、堆肥化施設、廃食油を利用した燃料、石けん作りなど環境に関する活動や教育を行う環境啓発の拠点となる施設と目指します。



私たちができる 魚津の水循環 それは“水”を守る事

3つのキーワード

- 山を守る 廃棄物として処理される事が多い間伐材パークや剪定枝、植機機を用い木質繊維を解体し発酵分解を促進する技術で良質で完熟した堆肥を作り大地に戻します。
- 食を守る 堆肥を使い大地の地力を取り戻し、化学肥料に頼らない「おいしくて安心・安全」な農業を目指します。
- 環境を守る 食べ残し・調理くずの“もったいない”を大地に戻します。



株式会社 魚津清掃公社

魚津市大光寺61-1
TEL 0800-600-5300



■魚津の水循環とは

魚津市は、海岸から標高2400mを超える山岳地帯にいたる高度差が、奥行き約25kmの中に凝縮されています。

この独特の地形により、山岳地帯で降った雨や雪が、川や地下水となって富山湾に注ぎ込み、その水が雲となってまた山や里に雨が降るといふ「水循環」が一つの市内で完結しています。

この水循環がもたらす、豊かで美しい水資源を、これからも継続的に且つ有効に活用する方法を見出します。

■水へのこだわり

“魚津の地の豊かで美しい水資源を活かし、質の高いものづくりをしていきたい”という創業当初からの思いは、今でも変わりません。

「なぜ、そこまで水にこだわるのか？」私たちは女性の脚の皮膚を、顔と同様“肌”として捉えているからです。

ストッキングをはじめとしたレッグウェアづくりには、相当量の水を使用します。ストッキングを直接肌に触れる第二の皮膚と考えると、製造過程の中で使われる水は、言わば“化粧水”と言えるかもしれません。

■これまでの取り組み

当社敷地内に25mプールよりも大きな排水処理プラントがあります。染色で使用した染料等の混ざった廃水を、国及び地方自治体が定める排出基準よりも10倍厳しい自主基準を設けて、河川へ放流しています。

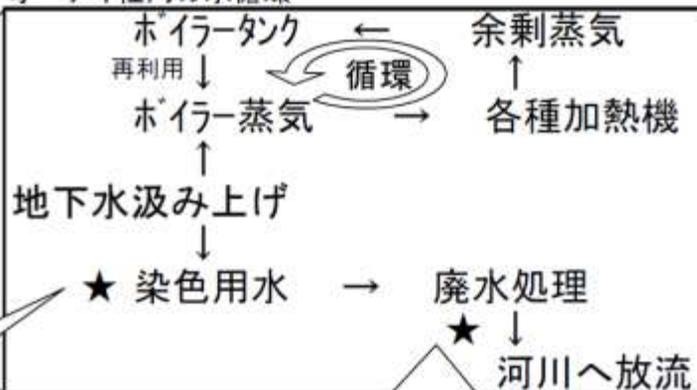
放流した河川では、蛍を見ることもできます。

■水の継続的利用と有効活用

魚津の水循環



オーアイ社内の水循環



【染色用水の削減】

染色給排水のオートメーションにより、染色用水の削減を目指します。

⇒ 地下水の汲み上げ量を削減し、地下水資源を継続的に利用できるようにする。

【廃水処理排水の再利用】

①融雪利用

⇒ 地下水の利用量削減

②排水を利用した小水力発電機の設置及び電力エネルギー創出の検討

⇒ 資源の有効利用及び電力コストの削減

③電気自動車を導入し、小水力発電機により発生した電力活用の検討

⇒ CO2排出量の削減。

近隣の、協力工場や外注先との資材・製品の運送が多いため、電気自動車の利点が十分に活かせると思われる。

■今後の展開

自然にやさしい、女性にやさしいレッグウェアを追求し、「お客様」「社員」「地域」を大切にするという理念の下、環境対策・地域振興への協力を検討していきたい。

記事

日本料理
海風亭



魚津駅前で日本料理を提供して創業100年。私、美浪昌哉で5代目になります。漫画「美味しんぼ 富山編」で当店の「ダングの電田揚げ」が紹介され、県外からの利用客も増えました。ランチの海鮮丼は、890円と格安で1日約30食出る人気メニューです。また、宴会の会席料理や茶事懐石など、幅広くお客様のニーズにお応えできるのが当店の強みです。

魚津の地形と水循環

●世界的にもまれな地形

魚津にある標高2400m級の山あり、そして海に沖まで伸びる。沖からの距離およそ25kmで一気に海まで下り、直線距離50kmの中におよそ3500mの高差があります。



●海と山を駆け回る水の大移動

海水は蒸発し、水蒸気となり雲になります。その雲は魚津の町、尾山などに雲の雨をもたらします。その雲は山まで潤湿しますが、高く広い立山を越えられない雲は留まり、雨や雪に形を変え、海からの水を選びます。

●水の通り道

山に下りた水は、主に2手に分かれます。一方は川の流れに乗り、海を目標す水。もう一方は山の斜面にもどり、地下水として海を目標す水。それぞれ異なる通り道ですが、どちらも魚津には必要不可欠な水です。

水循環で栄えた魚津

●川の水は産業・工業・農業を支える

魚津の三大河川、舟川、片貝川。早月川の開きには数多くの企業が立ち並びます。それはたまたまそこに由来たのではなく、水を求め、水を扱うことで発展してきました。また大きな川は、いくつもの小さな小川になり、農業を支えます。



●地下水は海に回り、深層水となり水産業を支える

10年以上長い年月の間、草や落ち葉、硬い土や柔らかい土、いろいろな所を回り、その間にたくさん栄養分を集めて海に帰ってきます。その水は深層水と呼ばれ、そこに集まる魚たちは、深層水で育つ栄養豊富なプランクトンを食べるので、「うまい魚」になります。またプランクトンを求め魚が集まり、なんと日本で採れる3分の1の魚類が富山湾で水揚げされるのです。また釣でくみ上げられた地下水は、「うまい水」として、その水は飲食業を支えます。

歴史館など、魚津の三大奇観にも深く関わり、魚津の観光業を支え、水の恩恵を受け、企業がそれぞれ発展し、食糧業を支えています。このように、水循環があったからこそ今の魚津があるといえます。

失われる水循環

しかし産業の発展による自然破壊、地球温暖化などの影響で、恵まれた自然環境や生態系は徐々に変化し、水循環も失われる危機に今、瀕しています。

- 冬山の降雪量が下降傾向にある。
- 川の水揚げ量が下降傾向にある。
- 川や地下水が枯れることもある。
- 魚津では昔採れていた魚が採れなくなり、南の方にいた魚が採れ出した。
- 50年後には富山湾の海水温が2度上昇するという試算が出ている。人間でいえば10度近い上昇です。

水循環を「守」るために・・・

- 1、水循環の認知度を高め、意識変革を起こす
- 2、水循環を守るビジネスで、継続的な保全活動
- 3、気軽に楽しく取り組めるエコで盛り上げる



水循環を守る活動母体
「じゅんかん屋」

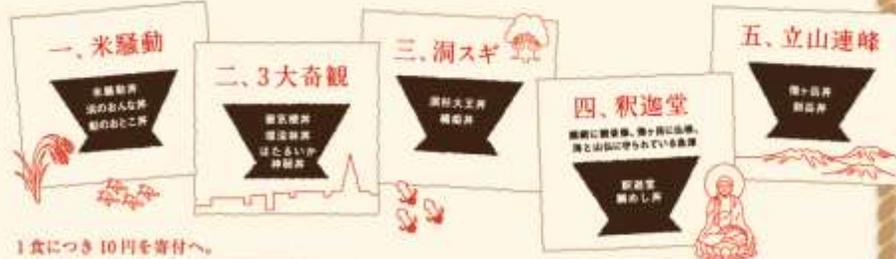
魚津の水循環を守るために、食材・食品・食器などを商品開発し、売り上げの一部を水循環保全基金に寄付します。つまり、

食べるだけで自然を守ることができるのです。食器などは、間伐材(杉・竹)を利用することで、さらに循環型のシステムを目指します。

「じゅんかん屋」は富山四ヶ所だけでなく、いろいろな企業や団体と協力して効率を上げることを目的としています。「じゅんかん屋」をブランド化し、その価値を高めていきたいと考えます。

商品案① 食べるだけで自然を守る 魚津物語 ごっつお井

魚津の歴史、魚津の自然にまつわる物語を、食べるだけで学び、イメージできる丼。



1食につき10円を寄付へ。
1日30食×300日＝年間90,000円が水循環保全の資金になります。

「ごっつお井」は食べる人が美味しいと感じるだけでなく、物語があり、面白いと感じる丼を作りたいたいと思います。観光客には米騒動の米蔵や、三大奇観などの観光名所に興味をもってもらうと同時に、魚津の水循環を知り、水循環の認知度と旅の満足度アップの効果が期待できます。メニュー・BOOIEには魚津にまつわる物語の説明をつけ絵本、写真集のような見て楽しい物にしたいと思います。またそれをランチマットなどにして販売、寄付します。

商品案② 間伐材を利用した「魚津漆器」

使い道のない間伐材(杉・竹)を加工し、食器に加工して販売。魚津の伝統文化でもある「魚津漆器」に加工することで、商品価値を高め、さらに伝統文化を継承できます。間伐材の食器は、仕入原価に300円プラスして販売。300円は寄付金になります。

この事業により見込める成果

- ☑ 魚津の水循環、自然を守る上での資金面での援助。
- ☑ 水循環をはじめとした、魚津の観光資源をわかりやすく伝えられる。
- ☑ 市民の意識改革により、環境保全や観光PRへの協力

「魚津物語 ごっつお井」を通して、市内・市外・県外の人に、楽しみながら魚津の恵まれた水循環を知ってもらい、魚津のブランド価値を高める一環が実現する「魚津丼」を食べる一食の一部分が環境保全に魚津の自然を守り続けられる。水循環を守りつつ魚津の経済が成長するという、循環型システムが実現できると思います。

魚津のこれからのために

魚津には、伸びしろがたくさんあると思います。今は多くの人が気が付いていないだけかも知れません。空の山です。2014年、北陸新幹線が開通しますが、魚津には止まりません。年々人口も減り、深層水が山積みのような気がしますが、やはり次第では魚津はまだまだ発展できると思います。なぜなら深層水らしい自然に恵まれており、人が集まる資源があるからです。伝え方、見せ方の工夫で、観光地としてさらに開発できると思います。また産業も今まで以上に発展できると思います。

自然の恵みを活かし、守りつつ発展していく。それが魚津の生きる道だと思います。

地元建設業者としての水資源の保全と有効活用

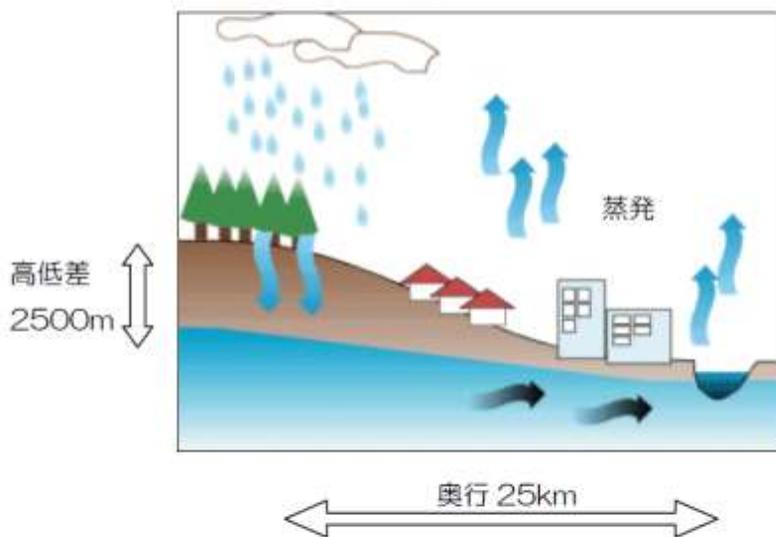
株式会社関口組 関口雄介

<魚津市の地形と水循環>

魚津市は高い山岳と海があり、海から山岳までの奥行が25km。そして、高低差が2500mである。今まで当たり前になっていたこの地形は、全国でも有数であり、奥行は狭く高低差があることが、水がキレイで美味しい理由である。

水循環とは、山に降った雪や雨が川、地下水に流れ、長い月日をかけて海に流れ着き、やがて、蒸発し雲となる。そして、また雪や雨が山に降ることである。この自然の恵みで起こっている現象を保全していくことが必要であり、また、エネルギーとして有効活用することが今後の課題だと思う。

～水循環のイメージ～



<自社の技術と特徴>

弊社は明治8年創業以来、魚津市内を中心に道路や海岸整備、河川工事などの公共工事を行なっております。また、学校、介護福祉施設等の公共施設、店舗や住宅の設計施工を行なっています。施工は一部、自社で行いますが、大部分は、特定建設業のため色々な業種の職人さんを監督し計画、管理を行い、人々が「安心して使える」、「生活がより便利になる」をモットーに、品質の高いインフラ整備を行なっております。

<魚津の水循環との関わり>

建設現場における環境問題は以前からあり、水質汚濁や土壌汚染等がある。工事のため濡ってしまった水やコンクリートが混ざった水はそのまま川に流すと汚濁してしまうため、適切な処理すること必要不可欠であり、これかも引き続き取り組むべき事項である。また、バックホウ等の重機がない工事現場はほとんど無く、地球温暖化の観点からCo2の排出の少ない重機の使用を行なっていきます



簡易式濁水システム



バックホウ (ハイブリット式)



ハイブリットシステムの仕組み

<今後の展開>

- ・今後も工事現場の環境問題（水質汚濁、土壌汚染）に配慮し工事に取り組む。
- ・魚津市の高低差を利用した小水力発電を検討する。
- ・建設現場から排出する産業廃棄物（バイオマス資源）の有効活用を考える。

魚津の水循環と地域産業の可能性

魚津市の自然環境と市民のつとめ

私たちが生活する魚津市は、早月川・片貝川上流の山岳地域標高約 2,400m から、富山湾の深海約 1,000m の標高差が、コンパクトにおさまるユニークかつ世界でも珍しい自然環境である。山岳丘陵地帯に降り注いだ雨や雪は、河川を流れ、また長い年月をかけて地下水となり、私たちの生活や食文化、そして様々な産業活動に、大きな恵みをもたらし続けてきました。これからも私たち魚津市民がこの恵まれた自然の恩恵を享受し、今ある生活を続けていくには、この恵まれた自然環境を守り続けなければなりません。

自然資源（エネルギー）に溢れる魚津

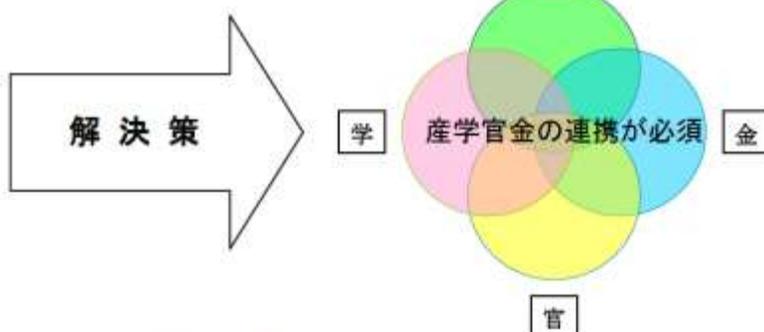
2011年3月の東日本大震災により原発の存続そのものが問われる今、この自然エネルギーは「再生可能エネルギー」として、これまでにないほどに注目を浴びることになりました。再生可能エネルギーには、太陽光、風力、小水力、地熱、バイオマスなどがありますが、富山県は全国でも地熱と小水力に対するポテンシャルは極めて高いとされ、魚津市も豊富な水量と高低差のある地形では、実に小水力発電に適した環境と考えられています。

再生可能エネルギーの特徴

- ① 自然由来
- ② 再生可能
- ③ 持続可能
- ④ 地域偏在

小水力発電に関する問題点

- ① 供給安定性
- ② コスト
- ③ 法令・諸制度
- ④ 技術
- ⑤ 運営（人、モノ、金）
- ⑥ 資金調達（設備投資）



信用金庫の期待されるスキーム

これからの信用金庫

長引く不況と少子高齢化、過疎化等の社会問題などから、地域産業の先行きはとても厳しく、信用金庫も従来のコア業務である預金・融資業務だけでは、経営が成り立たない時代が到来している。信用金庫の強みである地域住民との繋がり、そしてコンサルティング能力をこれまで以上に高め、地域全体と協力し合いながら新しい産業そのものを作り出す牽引役に務めていかなくてはならない。



にいかお信用金庫

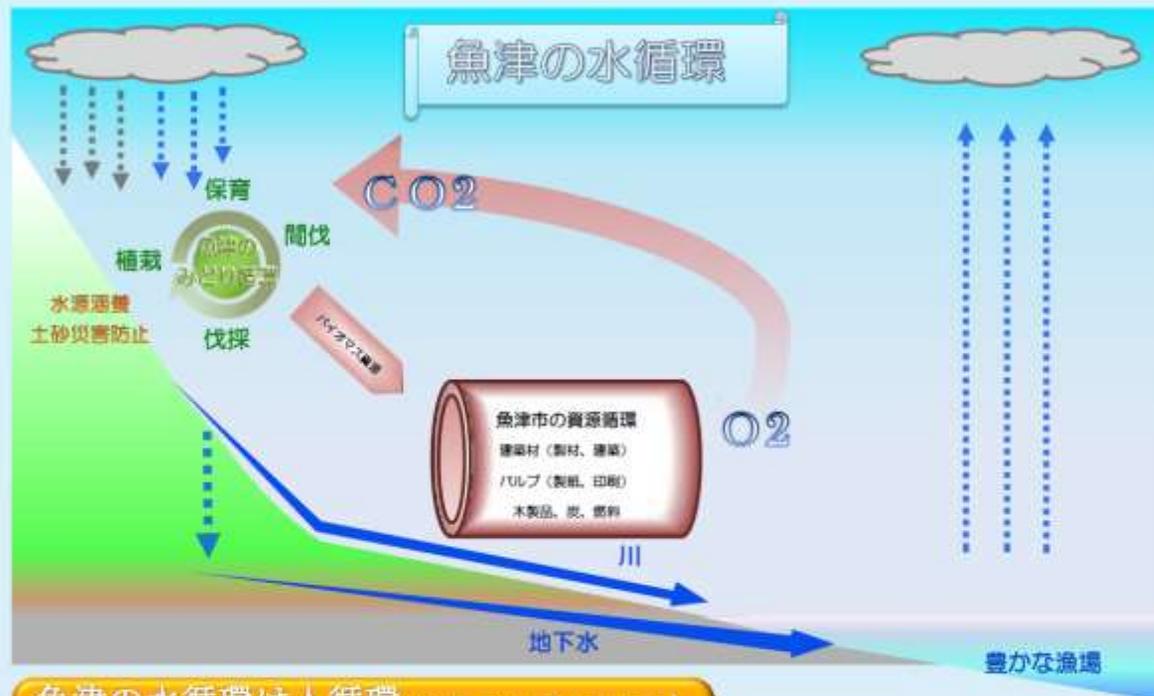
富山県魚津市双葉町 6 番 5 号 TEL (0765) 24-1214 FAX (0765) 22-7738

山は水環境のねっこ

海から蒸発した雲が 2,500m級の立山連峰に阻まれ、冬には雪となって山間部に溜めこまれます。春からは大量の雪解け水になり、25 kmと非常に短い距離で河口まで流れ、清潔なまま海へと供給されます。また地下へと浸透した水は、20年の時間をかけて純粋な水となり、直接海へと湧きだし、埋没林を2,000年もの間守り続けてきました。このような水と富山湾の水深 1,000mに達する地形が、多様な水産資源を育み「魚の津」魚津を形成しています。魚津の産業は、高度差 3,500mの水の恩恵によってもたらされています。

新川森林組合は、滑川市から朝日町までを管内とし、森林所有者の多くが加入している里山地域に密着した組合組織です。森林整備計画立案、整備作業、伐木の受託販売、木製品の加工販売まで、「植える」「育てる」「使う」をすべてサポートしています。

温暖化等、環境変化によるゲリラ豪雨で多発する土砂災害等は、地形要因以外にも荒廃した森林も引き起こすことがあるので、間伐等計画的な森林整備を行い、山を魚津の水環境のねっことして支えていきます。



魚津の水循環は人循環 (循環しないと壊んでしまう。)

環境に配慮した産業循環を三太郎塾から。

- 林業の再生。雇用環境の改善。
- 山から海までの産業が循環する協力体制。
- 森林整備、間伐材への理解。
- 間伐材 (木材) の需要拡大。
- 地消できるバイオマス資源としての可能性。



魚津の水循環を守ろう 寒の汐ぶり で水循環に寄与



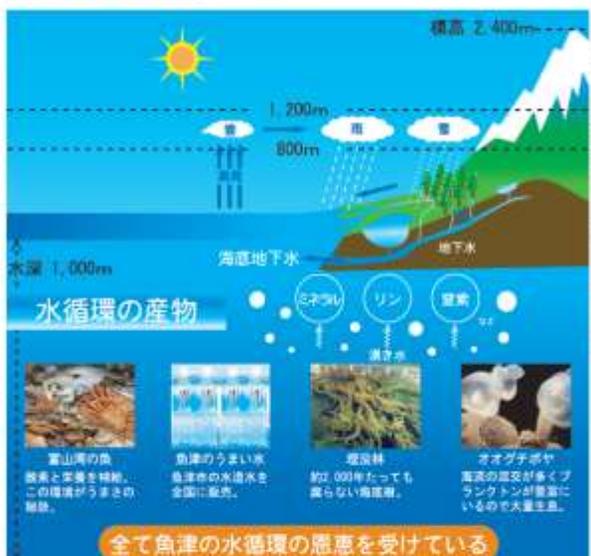
株式会社 **ハマオカ海の幸**

富山県魚津市港町3-1
TEL: 0765-22-0954 TEL: 0765-22-0954
URL: http://www.shiomon.com



魚津の水循環 ~ 高低差3,400mを一気に流れる水循環 ~

「海底地下水」を支えるのは森林



「魚津の水・魚」が旨いのは、その地形と大きく関わっています。天から降る雨は、日本海の海水が蒸発し、雲となり、地上800m~1,200mの山にぶつかり、雨や雪を魚津の大地に降らせます。その降った雨や雪は、川から流れ、海へと戻るものが7~8割り、他の2~3割のものは、森の木が葉や根っこから水分を吸収し、魚津の大地に浸透させています。そして、10~20年かけて「海底の湧き水」として、海底からじわじわと溢れ出ています。従って、今ある魚津の「海底地下水」は、10~20年前に降った雪や雨の水ということになります。この間、森林は水に旨みを与え、土は水にミネラルを与えてくれます。すなわち、10~20年間の森林や土の恩恵を受けていることになります。

この水循環のお陰で優れた水質を保つことができるので「魚津の水・魚」はうまいのです。水循環の高低差は実に3,400mにもなります。これは、全国的にみても稀なものです。

今後、この水循環そして海底地下水（海）を守り続けるためには、現在の私たちのライフスタイルを見直していく必要があります。

湧き水を守っていく為に...

かつて漁業関係の商いを行う者は「魚付林」を行っていました。「魚付林」とは海に魚が生息できその魚で商いができるのは、山や森林のお陰であるという思いから、植栽や間伐など山や森林を育てることに金銭を寄与したり、植栽などをするのでした。



経営資源を活かして水循環に寄与、そして地域の活性化へと

「整瓶の湾」より一夜干を...が当店の商品キャッチフレーズです。創業して60余年間、ここ魚津を拠点に魚介類販売に取り組んでいます。お客様にいかに喜んでいただけるか、事業を継続していけるかを念頭におきながら商いを営んでいます。

当社の看板商品「寒の汐ぶり」は、昔から富山県の皆様に親しんで頂いている商品です。寒ぶりのみを使用することで、身が締まり、脂がたっぷりのっている、霜降り肉のような甘味があり、焼き魚・ぶり大根・生ハムのように薄くスライス（ぶりハム）してお刺身としても味わえます。

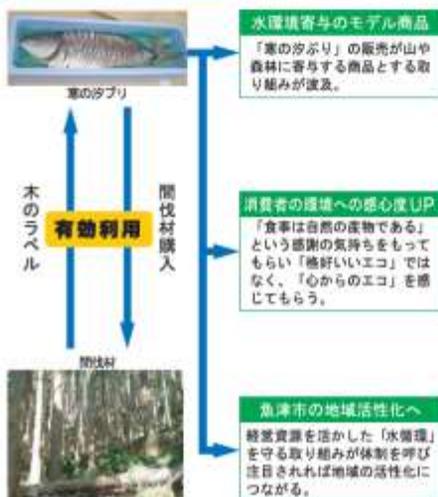
この「寒の汐ぶり」を活かして魚津の水循環に寄与、魚津の地域活性化に貢献していきます。

- 提案**
- 1 魚津の間伐材からできた「木のラベル」を使用します。
 - 2 「寒の汐ぶり」の売上の一部を森林保護のために寄与をし、そのことを「木のラベル」の裏面に記載します。
 - 3 「魚津の水循環」のシンボルマークを考案します。それを「寒の汐ぶり」のパッケージに貼るもしくは「木のラベル」に印刷します。
 - 4 「寒の汐ぶり」を、他社との差別化を図り、この商品が「魚津の水循環」に寄与しているイメージをつくります。



自社の資源「寒の汐ぶり」を使っの目指す効果と今後の展開

目指す効果



水循環に関与する商品



各企業・組合・団体との連携を目指す



郷土資源活用事業への支援サービス

『恵まれた環境が郷土の経済を支えています』



山があり、川があり、海がある。当たり前の風景、当たり前の環境が実は多くの豊かさをもたらしています。

海から山へ、わずか25kmの距離に2,400mの高低差。さらに深海1,000mの富山湾を合わせると、高低差で3,400mものダイナミックな地形。

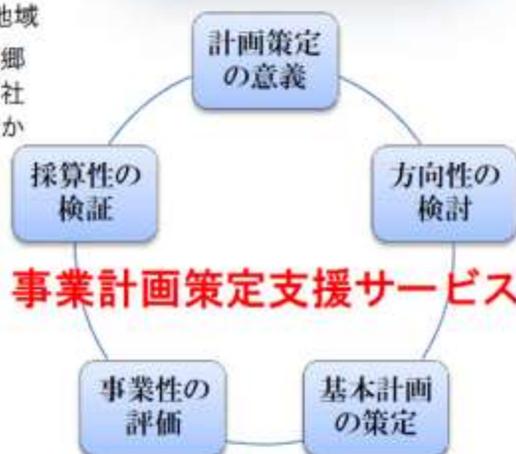
そしてこの地形を様々な形で循環する”水”。

水循環が郷土の漁業・農業・産業、そして市民の生活を支えています。この誇れる美しい環境を守り、将来に渡り共益できるよう育てていかなければなりません。

本田会計事務所の提供サービス

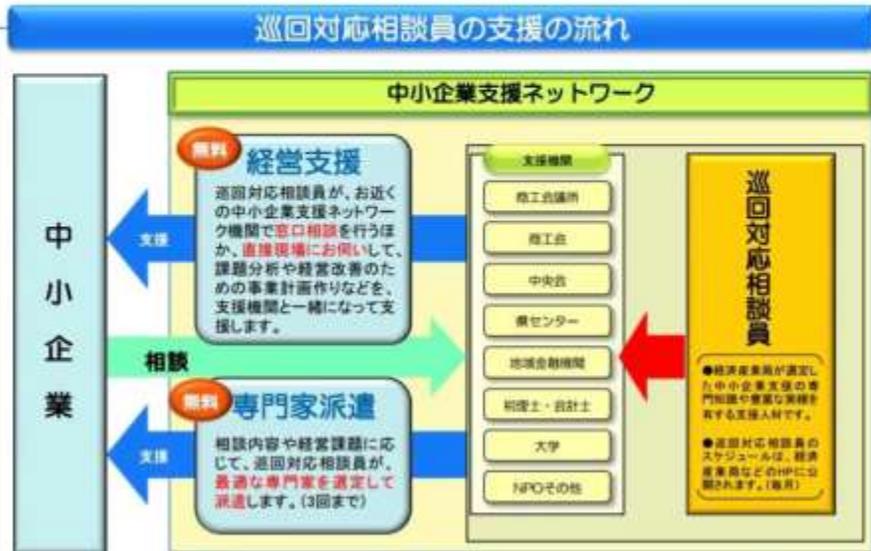
当社は県内の約500社のクライアント企業に、サービスを提供しています。環境変化のスピードが増していくなか、事業計画策定支援サービスを様々な業種に提供し実績を積み重ねてきました。

Q: そのような当社が地域のために何ができるのか。郷土の環境を育むために、当社のサービスをどのように活かすのか。



中小企業支援ネットワーク強化事業

A: 当社は地産地消やエコリサイクル、自然エネルギーの開発等の郷土資源を活用することを事業目的とした企業へ、経済産業省の政策を活用しながら事業計画策定支援サービスを提供することで郷土環境を育むための一助となります。



出典: 経済産業省